

# 複数の ASD(自閉スペクトラム症)の方の支援について個性記述的研究を行い、特性、行動、環境からの影響等について探る

津久井やまゆり園 生活1課 岸 卓也  
生活1課 虫賀 信也  
生活2課 飯田 郁乃  
地域サービス課 永井 真司

## 1. はじめに

津久井やまゆり園に入所しているASDの方は一人ひとり特性も経過も異なり、支援員は利用者さんごとに支援と評価のサイクルを重ねて理解を深め、支援を工夫している。本研究は利用者理解のための基礎的な取り組みの1つである。二人のASDの方について、その方の日常をよく知る担当者が取りまとめた事例報告と他の情報を加えて、それぞれの個性(本人らしさ)、行動について仮説を立てることを目指した。“個性記述的研究”は“自然な現実場面で、時間の経過とともに変化する特定の個人をありのままに記述していくことを目的とする”とされている。「研究」という言葉が用いられているが、「その人をよりよく理解することに役立つ方法・手段」という面もあり、事例研究・報告もそれに相当する。本研究は、利用者さんの日常をよく知る担当者による事例報告という“個性記述的研究”と他の情報も加えて、さらに検討する2層になっている。

## 2. 手続き

担当者の事例報告の作成。その事例報告を含めた以下の4つ情報を総合して利用者理解を行なう。

### (1) 事例報告

利用者さんの日常をよく知る担当者が「その人らしさ(他の利用者さんとは異なる行動・コミュニケーションの特徴)」「支援に関わること」「本人の今の状況」「今後について」の項目を念頭に記述

### (2) 家族・経過(成育歴)

### (3) 心理検査結果

### (4) プレイルームでの様子

## 3. Aさん

### (1) 事例報告

#### ① 基本情報

40代半ば、男性、療育手帳B1、障がい支援区分6、自閉症のある方。その他、コミュニケーションの取り方における特性、個性として、二語文での会話や、エコラリア、視覚優位でありひらがな、カタカナ、簡単な漢字を読むことができる。また、日常的に使われる言葉は、概ね理解することができる方である。

## ② コミュニケーションの特徴

### ア 二語文での会話

二語文での会話が多く、「活動、行く」「喉、痛い」といったような「名詞＋動詞または形容詞」での会話がみられる方である。

### イ エコラリア

支援者の言葉を復唱することがあり、実際とは異なった返答となることがあるため、支援者の聞き方に配慮が必要である。

例として、実際は野菜が嫌いであるのに質問者から「野菜好き？」とお聞きすると復唱するように本人は「野菜好き」と答える場面があります。聞き方を少し変え「野菜食べる？」とお聞きすると「野菜食べない」といった回答を得られることもあるが、写真や絵カードを使用し、補足で簡単な文章を書き記すことが、よりご本人に質問の意図が伝わる方法である。

### ウ 視覚優位(簡単な読み書きができる)

話し言葉より文字にすることで伝わりやすいこともあり、ご本人が気になっている日中活動や外出、移動販売会を記載した予定表のお渡ししている。しかし、ご本人の記憶に強く残り混乱を招いてしまうこともあり、受診等での予定変更があった場合、予定を繰り返し質問する様子もみられるため、直前での通知が良い物もある。

### エ ストレス表現が苦手

ご本人より欲しいもの、してほしいことの希望は多くあるが、「暑い」「騒がしい」といったようなストレスと覚えることについてご本人からのお話しについては少ない様子である。

## ③ 個性から見る生活への影響

### ア 力の強さ

強化窓ガラスやドア突き破ったり、鉄製のベッドを一人で居室の外へ担いで運んだり、力の強い様子がみられる。先述の通り、エコラリアであったり、ストレスを上手く伝えられないことでの不安や不満、苛立ちをその力をもって物や人に当たるといった様子もみられる。

### イ 繊細さ

力が強い反面、綺麗にしわ無く布団を敷いたり、衣類を畳む様子がみられる。塗り絵も色を変えながら枠からはみ出さないように綺麗に塗ることが出来る。

その繊細さが心情にも表れているのではないかと考えられる場面もあり、先の予定が気になって職員に繰り返しお話しする様子や、何かが気になり園中のカーテンを外すといったこと、布団や衣類を破くこと、物を壊すこと、人に当たることが見られている。

## ④ 個性から考える支援

### ア トークンコインで成功体験

「人を叩いたり蹴ったりしない」「物を壊さない」「服や布団を破かない」といった約束事を決めて、毎食時の間に約束事を守ることが出来たらコインをボックスに入れることができ、9枚のコインが貯まったら、普段のおやつとは別に特別なお菓子が貰える支援を行い、約束を守ることの良い体験ができる支援を取り入れた。また、ご本人にお好きなお菓子の希望をお取りすることで、ご本人の楽しみとなるような支援を行った。

### イ 物を壊す原因を探る

物を壊したり布団や衣類を破く要因は何かと考え、「お父様を呼びたい」「暑い」「周りが騒がしい」「古くなったから新しいものが欲しい」「余暇である段ボール破きの過ごし方からの影響」といった類推を行った。

## ウ ご本人の意識をお父様から担当職員へ

布団や衣類を破くとお父様が新しいものを届けてくれていた。そこでひとつの考えとして、物を壊せば頼れるお父さんが来てくれるといったことも頭に入れつつ、もっと頼ってもらえる担当になろうと考え、購入物品は担当で行い、欲しい物や、やりたいことをお聞きしたり、模索するように支援を行った。また、2週に1度お父様と外出や帰宅をしているが、外出・帰宅の無い週に情緒が安定しない様子がみられているため、園内でも楽しめることを企画・実行した。

## エ ストレスの表現方法(アイテムの使用と言葉での表現)

衣類や布団破きの原因のひとつは暑さと捉え、言葉で伝えることが苦手である様子がみられているため、アイスノンというアイテムを用意した。同時に言葉でストレスを伝えることもできるようになるには言葉での表現の経験の積み重ねが必要と考え、職員より「暑いですね。アイスノン交換しますか。半袖に着替えますか。」とお話し、言葉でのやりとりも大切に考え支援を行った。

## ⑤ Aさんの変化

### ア 物を壊したり、破くといったことの減少

トークンコインでの特別なお菓子を楽しみにされている様子であり、自身で物を壊す、破くといったことから、壊す破く前に職員に対象となるものをゴミ置き場へと持っていくように伝えることが増えた。

### イ ストレス表現の変化

暑いといったストレスに限定したものごとではあるが、アイスノンというアイテムを使用することで「アイスノン、交換」と職員に伝え、物や人に当たるといったストレス表現ではなく、アイテムを職員に示して「暑い」といったストレス表現を示すことが出来るようになってきている。また、言葉でのやりとりを大切にすることで「暑い、半そで、着替える」と「暑い」を言葉で示す様子、三語文でお話しする様子も徐々に増えてきている。

### エ ご本人から担当職員への関わりの増加

やりたいこと、欲しいものを模索する中で、昔の写真から満面の笑みでお菓子作りをしているものを見つけ、帰宅・外出の無い週を中心にお菓子作りの機会を提供した。はじめはホットケーキやバナナジュースといったメジャーなものから作ったが、ご本人から「シャーベック作る」と私から提供したものでないお菓子作りの希望を聞くことが出来た。また、欲しいものをお聞きすることで、あふれるように複数のお菓子の銘柄を職員に伝えるようになり、出来る限り希望に沿ったやりたいこと、欲しいものを提供していくことで、ご本人から担当職員への関りは増加した。

しかし、それが一概に「良かった」とは言い切れず、担当が関わりを多く持つことで、他の職員との差が生まれてしまっているケースもある。担当職員の勤務を繰り返し確認することもみられている。今一度「声かけ、対応の統一化」を行い混乱なく過ごすことの出来る環境を整えている最中である。

### オ ご本人の担当職員への関りの変化

担当して間もない頃は職員室に来て「トントントン、きしさん、開けて下さい」とお話ししていたが、関りを経てある日急に「トントントン、きしくん、おいで」と対応が変化の様子がみられた。勝手な勘違いかもしれないがご本人からの友好的な関係と認められての関りなのではないかと考える。

## (2) 家族・経過他

両親、弟。出生期特記無し。乳幼児期は多動、視線が合わない、スキンシップを嫌がる等ある。小中学校は現在の支援級。家族の事情で約半年施設 X に入所。養護学校高等部卒業。職前訓練目的で施設 X に入所後、徐々に便投げ、破衣・破壊、粗暴行為が増す。レスパイトで短期利用していた入所施設 Y にそのまま一般入所となる。ここでチックが疑われる発声と動作が確認される。入所して 10 数年過ぎた後、改築が行われることとなり他の利用者さんと共に一時的に他の施設で数年間生活した後、新しくなった入所施設 Y で再び生活を始めた。

## (3) 心理検査より

田中ビネー検査で全体としてはIQ35(6歳相応)。個人内差が大きく、グッドイナフ人物画知能検査の結果から、形や状況を“見て分かる”力は8歳相応、絵画語り検査他の結果から“聞いたり話したりする”力は2～3歳である。身体動作や日常生活の具体的なことがらに関わるひらがなを読んで分かり、自分の名前は漢字で大きさを揃えて丁寧に書くことができる。

## (4) プレイルームでの様子

心理職が居室を訪れプレイルームに誘うと「行く」と応じる。プレイルームに入室すると着席後は自発的な発言は少ないが、落ち着いている。食料品のチラシをゆっくり見てから破くことがあり、破き方は笑顔で丁寧にゆっくり割くように行うこともあれば、硬い表情でやや雑に行うこともある。心理職の提案でパズルや塗り絵に取り組むこともできるが、「難しい」「やらない」と意思表示することもある。

# 4. Bさん

## (1) 事例報告

### ① 基本情報

20代初めの自閉症の方。女性課は現在20～70代の方が在籍し、ご本人は最年少。障がい支援区分5、療育手帳 A1。

### ② コミュニケーション

オウム返しもあるが、簡単な会話や受け答えが出来る。他者の事は気になるが、沢山話し掛けられると気持ちが落ち着かなくなることがある。同じ言葉を何度も話される事が苦手。経験からの受け答えも見られる。

経験からの受け答えとして、職員が話していると「もういい」となると職員の会話の途中で「はい、分かりました」と伝える様子がある。また、他者の様子などを見て、受け答えする事があり、呟いた事や1番最初に言った事がご本人の気持ちである事がある。例えば、ジュースを選ぶ際、どれが良いですかとの質問に「これ」と言って選ぶものの、職員が再度これで良いですかと質問すると少ししてから「これにする」と違うのを選ぶ事があった。ご本人は時折、遅延エコーリアがあり、学生時代やご家族に言われた事についてのマイナスな言葉を発する事が多い。遅延エコーリアが出てくる場面としては、職員が他利用者さんに怒ってはいないが、少し声のトーンが低い時や電話などでマイナスな言葉が出て来ると、「やだ～」と話した後、「～したらだめでしょー」「もう知らないからねー」と話す事がある。他者を気にするという点については、ご本人は目でも耳でも良く周りについて見たり聞いたりしている為、職員が1名の利用者さんに付き添い続けると、大きな声出しや気持ちが落ち着かなくなると、その方へ物を投げる様子が見られる。

### ③ ご本人の良い所

次にご本人の良い所は耳が良く、人の名前を覚えるのが早い事である。居室から離れている場所の言葉も聞き取る事が出来る。また耳が良いので、歌を歌うと音程が完璧で、主旋律だけではなく、他のパートも歌う事が出来る。職員が出勤すると「〇〇さんおはよう～」と話していた。居室から出て来て挨拶をしたり、職員が支援室から出て来ただけで、声を聞いて、職員を当てたりしている。

ご本人の良い所2つ目として、洗濯物を綺麗に畳むことが出来る所である。脱衣があった際、洗濯ネットに入れる時、綺麗に畳む様子が見られた事から、カード支援のスケジュールの中にも将来にも活かす事が出来る事から、洗濯畳みを取り入れた。洗濯畳みの際は、上衣は上衣、下衣は下衣等と分けて畳む事が出来ている。1枚1枚、丁寧に扱う事が出来ており、左から右という流れで作業ができる様に、左から洗濯物を取り出し、右側のBOXに仕舞うようにしている。ご本人の終わりの認識が「その場からなくす」の為、籠の物が無くなったら、終了とし、トランジションカードでスケジュールに戻る事で、最後まで取り組んでいる。

ご本人の良い所の3つ目として絵を描く事や音読が得意な所だ。心理支援の際、絵を描く時間があり、女の子やお花を描いている。絵本もご自分で選び、音読をする様子が見られている。絵本は「ふしぎないちもんせん」「におうとどっこい」を交互に読む。「うたのえほん」は音楽(童謡)になる玩具で、ボタンを押すと音楽が流れるから1つずつ順番に歌っている。

ご本人の良い所の4つ目として、散歩や感覚刺激(運動感覚)になるものが好きな所である。身体を動かす事が好きで、居室ではバランスボールに乗って過ごしたり、日中活動ではロデオ、ユニットでのカード支援中のスケジュールとしてエアロバイクを取り入れていたりしている。散歩は早いペースで歩く様子が見られるが、後ろを歩く職員を見て、待つなどの優しい所もある。

### ④ 短期利用から入所にかけてのご本人の様子

短期利用から入所時にかけて唾吐きや床での排尿、ドアを力強く開閉する様子が見られた事から、コンサルテーションからアドバイスを貰いながら、問題行動が見られる時間帯を書き込み、夕方が多い事から、そこへカード支援を取り入れる事になった。カード支援を取り入れるにあたり、環境整備として居室も変更を行った。感覚刺激の為に自転車を取り入れ、ご本人の安心材料だったバランスボールも取り入れた。

### ⑤ カード支援を取り入れてからの変化

カード支援を取り入れてみて、変化として、唾吐きは殆ど見られなくなり、床での排尿が減った。また、居室変更をするとドアを強く開閉する事が減った。新しい様子として、居室変更した際、桜の木を見ながらバランスボールをしていた。脱衣なども減り、スムーズに入眠まで行う事が出来ている。初めは寝るまでの時間を長めにしていたが、脱衣や床での排尿が見られた。自宅ではご飯を食べた後、すぐ寝ていたという所に着目し、寝る前の時間を短くする事で脱衣などがなくなり、スムーズに入眠している。

当初は絵カードでのスケジュールでしたが、文字が読める事、場所を理解している事から、現在は文字カードのみで行っている。

### ⑥ カード支援で新しい取り組み

カード支援を始めてから新しく取り入れた物として、1日の終わりとしてミルクティー作りを取り入れ、寝る前に作って飲んでいいる。飲み物を購入する際、ミルクティーを購入する事が多く、今後の日常でも活用出来る物の為、取り入れた。お湯を溢れる程入れる事はなく、適量入れる事が出来ていて、熱いものが苦手な為、氷を用意するとご自分で熱さを調節して飲んでいいる。初めに行った際は、経験からか手順書を見ることなく、作る事が出来ていた。もう1つは音

楽を聴く事が好きな為、夕食後に音楽を聴く事を取り入れた。

1番最初に行った時は、タイマーで終わる形で行っていたが、タイマーで終わる事が出来ない事があった。コンサルテーションで相談をし、“1曲聴き終わると終わりという認識の可能性があり”、現在は3曲用意をし、3曲終わったら次のスケジュールに移動する形で試行している。試行の結果として、イヤホンで聴いている事から、周りの音も遮断され、身体を揺らしながら聴く様子や曲が終わったら終わりという、ご本人の分かりやすい終わり方の為、スムーズにスケジュールに戻る事が出来ている。

### ⑦ 現在の問題点、今後の取り組みについて

カード支援を取り入れた結果、良くなった点もあるが、現在の問題点としては、長袖から半袖、半袖から長袖の衣替え等の季節の変わり目、職員の異動などもある春頃に衣類破きが多く見られている。長く着用している物でも、しばらくすると破いていた。

しかし、午後のカード支援の際には衣類破きは殆ど見られていない。午後にはカード支援が入っている事から、見通しが持てている為か衣類破きは殆どない。その為、午前にも見通しを持てるものを用意すると良いかもしれないとアドバイスがあった事から、代替品として余暇課題にちぎり絵を用意し、ご本人が衣類破きより興味が持てる様な課題を摸索している所である。ご本人の強みとして、希望等が伝える事が出来る事から、ご本人が何色の衣類を希望しているのか等細かく職員へ希望が伝えられるように、将来 PECS を取り入れていきたいと考えている。

私自身が気を付けている所としては、他者を気にする事が多い為、ご本人にも必ず少し声を掛けるようにしている。また、他利用者さんへの声掛けも気をつけており、声のトーンは伝え方を工夫している。中々着替えが出来ない方やユニット内を歩き回っている方について、おしゃれさんなんですね、素敵なのを持って来て下さい、暑いのですね、ご飯が来るまではお散歩していて良いですよ、今日のメニューが気になったのですかと声を掛けるようにしている。ご本人だけではなく、他利用者さんにもいえることであるが、正義感が強い方が多くいる為、職員は注意している気持ちでなくても、声のトーン等で「怒っている、今この人悪いことしている」という認識で、利用者さん同士で注意したりして気持ちが落ち着かなくなる事もあった。私の中ではユニットはお家の為、お家に一緒に住んでいる人から言われたりするのは嫌だろうなという気持ちから、なるべく利用者さんが気持ちよく暮らせるように、声掛けに気を付けている。

### (2) 家族・経過

両親、姉 胎生期・出生時特記無し。小学校支援級、中学より養護学校入学。小学校5年生頃から登校前に脱衣が始まる。養護学校高等部卒業後、生活介護を利用しながら在宅生活していたが、物投げ、故意の排尿、粗暴他で家族の負担が過度になり入所に繋がる。これらの行動は、母や父が姉と話している時に多かった。

およそ9か月の間に短期利用を繰り返した後、一般入所して約2年経過する。

### (3) 心理検査より

田中ビネー検査で全体としてはIQ24(4歳半ば相応)。ただ、個人内差があり、グッドイナフ人物画知能検査の結果から、形や状況を“見て分かる”力は6歳半ば相応、絵画語い検査他の結果から“聞いたり話したりする”力は3歳～4歳である。身体動作や日常生活の具体的なことに関わるひらがなを読んで分かる。ひらがなの絵本を声に出して読むが、内容についての質問には答ええない。

#### (4) プレイルームでの様子

日中活動で使用しているカード支援の最後にプレイルームの写真を入れておき、それに従ってプレイルームに来る。入室すると、絵本の音読を行ない童謡の流れる絵本の曲を全て聴くことが定例化している。その後はくつろいだ様子で過ごし、心理職が「～しましょうか？」と言葉かけすれば応じ、「次は何をします？」と訊けば「お絵描きする。」などと答えて自ら画用紙等を用意して取り組む。本人が何か(それを本人がよく行う描画の場合でも)を始めようとしている時に、心理職の言葉かけによっては”何か“を止めようとしたり、別のことに変える。

### 5. 一般的な ASD の特性について

個人差が大きいですが、世界的に広く用いられているアメリカ精神医学会が公表した DSM-5 (『精神疾患の診断・統計マニュアル』)によれば、ASD の人に以下の特徴があるとされる。

#### (1) 社会的コミュニケーションと対人相互反応に持続的な困難がある。

- ①社会的・情緒的な相互関係の障害
- ②他者との交流に用いられる非言語的コミュニケーションの障害
- ③年齢相応の対人関係を築いたりそれを維持することの障害

#### (2) 行動、興味、活動が限定された反復的な様式

- ①常同的で反復的な身体動作、物の使用、あるいは話し方
- ②同一性へのこだわり、習慣へのこだわり、言語・非言語的な儀式的な行動
- ③非常に強くて極めて限定的な興味・関心
- ④感覚刺激に対する過敏さ、鈍感さ

### 6. 今回の2つの事例に関わる仮説

#### (1) Aさん

- ①視覚認知能力の高さが状況にあった動きをすることに役立ってきた。相手から言われたことの意味が分からない時にはエコラリアで答える。エコラリアや遅延模倣のあることから周囲の音声が耳に入っている。
- ②「暑い」「寒い」ではなく、「エアコン点ける。」等の動作や行為を表す言葉で生理感覚を感じていることを表現する。これは支援者の言葉がけが学習された結果であるように思われる。同様に「○○を食べる」や「作る」「買う」等で「好き」であることを表し、「○○を食べない・残す」等で「嫌い」であることを表している。
- ③自発性が低いので人を避けていると解釈されることもあるが、人と同じ場で過ごすことや関わり合うことを求めている。
- ④言葉で分かり言葉で伝えることができることもある。が、それに比べて、視覚・聴覚・皮膚感覚などで捉えられること、雰囲気から感じ取っていることが多くある。
- ⑤無意図的である可能性がある発声や動作が幼少期からあったが、意図的な場合との違いが、周囲の人には分かりにくい。
- ⑥ニーズに応じた関わり(支援)が、Aさんの担当職員への関心を高め、言葉の模倣や要望の発語が増えるようになった。またそれは、担当職員の支援意欲を高め、相互関係の進展に繋がる。

## (2)Bさん

- ①視覚認知能力が高く、支援者の話を聞いて分かることと比べ、見て分かることの方が正確で多い。
- ②言葉によって意味理解に差がある。即時エコラリアで返すのは、理解が難しい言葉の場合が多い。「雨が降っていますね。」に対して「雨がふっていますよ。」と語尾の1文字のみ変えて返す場合もあり、まったく同じエコラリアの場合と異なる意味理解をしていることが伺われる。
- ③遅延エコラリアが出る時、大きく反応しない方が本人の安定に繋がる。
- ④視覚(カード)によるスケジュール支援は次に“何をすればいいか”が分かりやすいので過ごし方の学習や行動の安定に繋がる。
- ⑤他の人に向けられた言葉を自分に向けられた言葉と思うことがある。
- ⑥何かの行動を始めようとしている時に、支援者からの言葉かけを“(Bさんは違う)”あるいは“やってはいけない”と言葉の意味とは異なる解釈をすることがある。
- ⑦生活課の他利用者を「うらやましい」と意識する気持ちを抱くようになっており、支援者との関係が深まったことが背景にある。

## 7.おわりに

事例をまとめること(≒個性記述的研究)は報告者に多くのことをもたらす。それは担当する利用者との関わり合いを振り返る機会であり、利用者理解の深まりであり、関わりに伴う喜びの再確認である。また、当該の利用者に関わるだけでなく、他の利用者や利用者同士の関係に配慮した支援の気づきや工夫である。今回の研究で報告者はAさん、Bさんのことを、担当者の目線で改めて知り考えることとなった。あわせて、自閉症スペクトラム症の人の特性を踏まえて、成育歴、心理検査の結果、プレイルームでの心理支援時の様子から、それぞれの個性について見直し考察する機会となった。